

## 2025年度第2回にいがた摂食嚥下障害サポート研究会講演会 報告

共催：新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻・口腔生命福祉学専攻

後援：一般社団法人新潟県歯科医師会、一般社団法人新潟県歯科衛生士会

一般社団法人新潟県言語聴覚士会、公益社団法人新潟県栄養士会、公益社団法人新潟県看護協会

**日 時** 2025年12月7日（日）

講演会：13時00分～17時00分、交流会：17時25分～18時30分

**場 所** 新潟大学歯学部講堂、ZOOMによるハイブリッド開催

**参加者数** 講演会：129名（会場参加51名、ZOOM参加78名、オンデマンド配信参加は未計上）  
交流会：36名

**参加企業** 講演会：6社（会場展示企業6社、ZOOM参加企業4社、重複あり）  
交流会：8社

### タイムスケジュール

13:00 開会挨拶（井上会長）

13:05 症例報告「摂食嚥下障害の病態評価から原疾患の診断に至った一症例」

　　演者 西 沙織先生

13:30 講演1 「睡眠と口腔機能の新しい視点 — 嚥下、睡眠時無呼吸、多職種連携」

　　講師 中山秀章先生（東京医科大学睡眠学講座 客員教授）

14:40 講演2-1 「「OISHIEN」でつなぐ！多職種連携 — 摂食嚥下情報共有システムの活用—」

　　講師 真柄 仁先生（新潟大学医歯学総合病院 摂食嚥下機能回復部 病院准教授）

　　講演2-2 「頸部装着型デバイスによる咀嚼・嚥下機能評価エビデンス」

　　講師 下柿元智也先生（PLIMES株式会社 代表取締役副社長 兼 共同創業者）

15:20 企業紹介

15:50 講演3 「耳鼻科診療所で行う外来嚥下診療・食物窒息の予防と対策」

　　講師 加藤健吾先生（かとう耳鼻咽喉・嚥下クリニック 院長）

17:00 閉会挨拶（張替副会長）

17:10 ワンコインカフェ

### 概 要

本講演会では、1例の症例報告、4名の講師による講演が行われた後、参加者の交流会が実施された。

最初に新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野の摂食嚥下治療登録医制度の紹介が行われた後、本制度の研修医である西 沙織先生から「摂食嚥下障害の病態評価から原疾患の診断に至った一症例」について報告があった。臨床症状から脳幹梗塞を疑い、速やかに関係する診療科に紹介することで早期のリハビリテーション実施と良好な予後につながったことは、参加者からも高い評価を得た。

講演1では、「睡眠と口腔機能の新しい視点 — 嚥下、睡眠時無呼吸、多職種連携」と題し、中山秀章先生に睡眠中の嚥下、唾液、咳反射の生理学、高齢者や閉塞性睡眠時無呼吸症候群によってもたらされる睡眠と嚥下運動への影響、誤嚥リスクなどについて解説いただいた。近年関心が寄せられている睡眠時の嚥下に関する講演もあり、参加者からは多くの質問が寄せられた。講演2の1では、真柄 仁先生に、

「「OISHIEN」でつなぐ！多職種連携 一摂食嚥下情報共有システムの活用ー」と題し、摂食嚥下情報共有システムを用いて、多職種や専門医が画像を含む情報を共有し、症例を相談したり、現場で行われている訓練や食事のモニタリングを行う試みについて紹介いただいた。さらに講演2の2にて、下柿元智也先生から「頸部装着型デバイスによる咀嚼・嚥下機能評価エビデンス」と題し、嚥下音を計測し自動解析するシステムの紹介と今後の可能性について説明いただいた。休憩時間には、会員企業の紹介の動画配信とともに、来場者に対しては、企業展示を行い、最新の情報を提供した。講演3では、加藤健吾先生に「耳鼻科診療所で行う外来嚥下診療・食物窒息の予防と対策」と題し、自院での嚥下診療地域との連携の実績を紹介いただき、食物窒息事故のリスクの解析および対策について解説いただいた。

いずれの講演に対しても、会場参加者およびZOOM参加者から多くの質問や意見をいただき、有意義な講演会となった。

講演会終了後、「ワンコインカフェ」と称した交流会を開催した。ソフトドリンクやお菓子などを食べながら、講師や参加者同士の情報交換を行った。また企業からは多くの試食やサンプルも提供され、有意義な交流を行うことができた。

## 参加者特性

職種別：歯科医師 49名(38.0%)、歯科衛生士 20名(15.5%)、医師14名(10.9%)、言語聴覚士 14名(10.9%)、管理栄養士9名(7.0%)、看護師 7名(5.4%)、企業 7名(5.4%)、作業療法士 4名(3.1%)、学生 2名(1.6%)、理学療法士 1名(0.8%)、臨床工学技士 1名(0.8%)、工学研究者 1名(0.8%)

会員種別：会員 92名(71.3%)、非会員 31名(24.0%)、学生 3名(2.3%)、うち1名は歯科衛生士であるため、上記職種別カウントでは、歯科衛生士として計上)

地域別：新潟県内 78名(60.5%)、新潟県外 51名(39.5%)



開会挨拶 井上 誠先生



座長 吉原 翠先生



演者 西 沙織先生



座長 井上 誠先生



講師 中山秀章先生



座長,講師 真柄仁先生



講師 下柿元智也先生



座長 辻村 恭憲先生



講師 加藤健吾先生



閉会の辞 張替 徹先生



会場での質疑応答



会場参加者



オンライン参加者



ワンコインカフェ



交流会の様子

**参加者によるアンケート結果** (有効回答数58名 回答率45.0%)

**1. 性別**

①男性 22名 (37.9%) ②女性 35名 (60.3%) ③未回答 1名 (1.7%)

**2. 年齢層**

①10 歳代 8名 (13.8%) ②20 歳代 8名 (13.8%) ③30 歳代 18名 (31.0%)  
④40 歳代 12名 (20.7%) ⑤50 歳代 11名 (19.0%) ⑥60 歳以上 12名 (20.7%)

**3. 職業**

①歯科医師 20名 (34.5%) ②歯科衛生士 13名 (22.4%) ③医師 6名 (10.3%)  
④言語聴覚士 5名 (8.6%) ⑤管理栄養士 4名 (6.9%) ⑥栄養士 2名 (3.4%)  
⑦看護師 2名 (3.4%) ⑧作業療法士 2名 (3.4%) ⑨学生 2名 (3.4%)  
⑩臨床工学技士 1名 (1.7%) ⑪理学療法士 1名 (1.7%)

**4. 今回の講演会は有意義なものでしたか**

①まったくそう思う 52名 (89.7%) ②まあまあそう思う 6名 (10.3%)  
③どちらとも言えない 0名 (0.0%) ④あまりそう思わない 0名 (0.0%)  
⑤全くそう思わない 0名 (0.0%)

**5. 今回の講演会はあなたの興味に対して適切でしたか**

①まったくそう思う 47名 (81.0%) ②まあまあそう思う 11名 (19.0%)  
③どちらとも言えない 0名 (0.0%) ④あまりそう思わない 0名 (0.0%)  
⑤全くそう思わない 0名 (0.0%)

**6. 講演内容の難易をどう感じましたか**

①非常に分かり易い 27名 (46.6%) ②まあまあ分かり易い 29名 (50.0%)  
③どちらとも言えない 2名 (3.4%) ④あまり分かり易くない 0名 (0.0%)  
⑤全く分からぬ 0名 (0.0%)

**7. 今後このような主旨の講演会を開催することについてはどう思いますか**

①非常に賛成する 52名 (89.7%) ②まあまあそう思う 6名 (10.3%)  
③どちらともいえない 0名 (0.0%) ④あまり賛成しない 0名 (0.0%)  
⑤まったく賛成しない 0名 (0.0%)

**8. 講演会で聴きたいテーマについて教えてください**

- 呼吸器と嚥下の関係性をもっと詳しく学びたいです
- 咀嚼と窒息の評価エビデンスをさらに詳しく聞いてみたい
- 呼吸について、完全側臥位について、呼吸介助について
- 高齢者の嚥下

- ・小児の嚥下障害について
- ・神経難病疾患に関するテーマ
- ・嚥下の間接訓練、直接訓練など
- ・シェーグレン症候群の嚥下障害の改善、管理について
- ・高齢者施設の職員でも取り入れられるその人にあった食形態や副菜の硬さの考え方について
- ・入院患者の周術期の内容と栄養について
- ・加藤先生の内容がとても参考になりました
- ・在宅での取り組みを今後も取り上げていただけるとありがとうございます
- ・在宅歯科医療（摂食嚥下を含む食支援等）での多職種連携の実情と今後の課題などについて
- ・病態とリハビリ計画、介入方法
- ・摂食嚥下障害患者に対して歯科衛生士ができることや行える訓練
- ・訪問歯科と医科との連携
- ・医科、歯科連携、多職種連携について
- ・訪問診療から専門医に紹介すべきケースにはどのようなものがあるのか、OISHIENの活用について多職種連携にフォーカスした話（特に医師、歯科医師でないコメディカルやソーシャルワーカーがどのような情報を活かしているのか、など）
- ・生成AIと嚥下
- ・OISHIENシステムに関わっている在宅栄養士の活動

## 9. 今後、講演会では対面による実習を行うことを検討しています。

希望する実習内容があれば教えてください。

- ・間接訓練・直接訓練 VE・VFの読み取りかた（歯科衛生士向け）
- ・VEの相互実習やVEの見学
- ・VE
- ・機器を用いた嚥下訓練
- ・リハビリ職のため、訓練方法に関する実習内容
- ・摂食嚥下障害を有する患者に対する、診査・診断・治療計画・予後判定等の作成作業と他の参加者のディスカッションなど。
- ・完全側臥位の実習、実際に体験してみる
- ・家庭でできる嚥下調整食の調理実習
- ・食事介助
- ・食形態
- ・食事介助のポイント、完全側臥位について、食べやすいとろみや量、食形態、食事の姿勢、ポジショニング
- ・OHATの取り方、義歯の管理
- ・高齢者施設で実践しやすい内容だとうれしい
- ・より、臨床的な内容を、ハイブリッド形式にてあれば助かります。

## 10. その他、ご意見があればお願いします

- ・OISHIEN の多職種連携の中にぜひ、福祉の視点も入れてほしいです。在宅になる患者さんの多くは訪

- 問介護、介護保険利用者、医療扶助（生活保護利用）を受けている可能性があり、多職種連携の中に、ケースワーカー、MSW、民生委員などを含め、患者さんの生活背景を踏まえ、より健康増進を促すことができると思います。また、高齢者だけでなく医療ケア児への利用も検討していただきたいです
- ・大変勉強になりました。どうもありがとうございました。
  - ・企画、運営ありがとうございました。
  - ・どのテーマも興味が湧く内容であり、時間もあつという間でとても勉強になりました。講義内容もわかりやすかったです。個人的には神経難病の方に携わっていますので、聴きたいテーマにも記載しましたが、神経難病に関する内容の講義も検討していただけましたら幸いです。本日は貴重な講演ありがとうございました。
  - ・遠方より参加しております。もし可能でございましたら、ハイブリッドでの開催もご検討いただけますと幸いに存じます。
  - ・施設勤務の時に摂食嚥下の相談をどこにすれば良いのか悩んだことがあります。加藤先生の話された通り、大学病院はハードルが高すぎました。摂食嚥下治療登録医の先生がいる医院のリストとかはあるのでしょうか？摂食嚥下関連医療資源マップがそのリストになりますか？
  - ・途中から、スマホの不具合？zoomの不具合にて音声が聞こえなくなりました。もし、期間限定で申込者のみ配信などあれば非常に助かります。クリニックで摂食嚥下 VFなどしている所は2箇所と述べられてましたが、九州に大学病院や大規模病院など以外で気軽に相談できるクリニックなどあれば教えて頂きたいです。
  - ・大変有意義で勉強になりました。ありがとうございました。
  - ・非常に参考になる有意義な研修会だと感じました。ありがとうございました。
  - ・いつも著名な先生方の講演を聞かせていただきありがとうございました
  - ・学生でも楽しく、興味深く拝聴しました。学生にももっと周知していただけますと幸いです。
  - ・日曜日開催だと、仕事がないのであります！